



AIデータセンター偏重の市政 —暮らしは本当に守られるのか

薩摩川内市 令和8年度予算案・施政方針を読む

薩摩川内市の令和8年度当初予算は、一般会計599億1千万円(前年比1.3%増)とされました。市長の施政方針は「強い経済」「サーキュラー都市」「AIデータセンター」を前面に打ち出し、未来志向を強調しています。しかし、その中身をみれば、いくつかの重大な論点が浮かび上がります。

1. AIデータセンター推進 —リスクと市民合意は十分か

施政方針では、川内港背後地における国内最大級のAIデータセンター構想を繰り返し強調し、企業との覚書締結も報告されています。確かに産業振興の可能性はあります。しかし—電力需要の急増と地域エネルギーへの影響、用水・排熱問題、地域経済への実際の波及効果、災害時の安全対策などどうした点の具体的説明はどこにもありません。

GX戦略地域とは、国(経済産業省など)が推進するGXグリーントランスフォーメーションで脱炭素と経済成長の同時実現を、地域単位で先導的に進める拠点(こと)をめざすとしていますが、それが地域住民の暮らしの安心にどう結びつくのかは示されていません。企業立地ありきで、生活環境への影響評価が後追いになっていないか、厳しく問われるべきです。

3. 原子力防災 —実効性は高まったのか

施政方針では、原子力防災訓練の実施が報告されています。しかし、道路寸断時の避難実効性、高齢者・要支援者の個別計画、複合災害時の現実的シナリオなど具体的検証結果は示されていません。訓練を行うこと自体と、

「避難できる」ことは別問題です。安全神話に戻るのは許されません。

4. 防災・インフラ整備と暮らしの課題

河川改修や港湾整備などの大型インフラ事業は継続されています。一方で、国保や介護の負担軽減策、物価高騰対策の抜本策、公共交通の維持といった生活直結課題は、力強い新

展開が見えにくいのが実情です。「強い経済」を掲げる一方で、今苦しんでいる市民の生活防衛は十分か。ここに市政の優先順位が問われます。

5. DXと市民サービス—デジタル化は目的化していないか

電子契約や備蓄管理システム導入などDX推進が掲げられています。しかし、高齢者のデジタル格差、アナログ窓口の維持、市民負担の

軽減効果が十分説明されていません。DXは「効率化」だけでなく、「市民の利便性向上」が目的であるはずですが、

公園の記念人形、それが管理?—地域の声から動き出す
新田神社参道の公園に、1964

こちら暮らしの相談所
(No. 642)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。



年の東京オリンピックを記念して設置されたと思われるセメント製の人形があまりす。近隣の方から「古くなって壊れている、いったい誰が管理しているのか」とのご相談をいただきました。そこで、当時関わったとみられる団体の代表の方を訪ねました。先方は「当時は贈呈したはずだが、現在の管理者は分からない。しかし、このままにするわけにはいかないと、管理の所在を確認し、対応を検討していくことになりました。公共空間にある工作物は、寄贈品であっても、設置後の管理責任が曖昧になることがあります。今回のように、住民の声がきっかけとなって、関係者が動き出すことはとても大切です。」

未来ビジョンと生活現実のギャップ

令和8年度予算は、表向きは「成長」と「未来志向」を掲げられています。しかし、AIデータセンター偏重、生活支援の構造的強化の不足、原子力防災の実効性への疑問、財政の持続可能性の検証不足など、多くの論点が残されたままです。経済成長は誰のためか。大規模投資は、市民の安心につながっているのか。議会の徹底審議と、市民への丁寧な説明が強く求められます。



エプロンおばさんの 簡単クッキング (695)

★白菜と鶏肉の ピリからみそ煮

材料 (2人分)

白菜 1/8 個 (200g)、鶏もも肉 (皮を除く) 200g、長ネギ 1/2 本、ショウガ 20g、トウバンジャン小 2/3、ごま油 小さじ 2 A (みりん大さじ 2、みそ大さじ 1、水 100ml)

作り方

① キャベツは約 2cm 角に①白菜は長さを 3 等分にし、縦に 1cm 幅に切る。鶏肉は一口大に切る。長ネギは斜め薄切りにする。
② 鍋を中火で熱し、ごま油を入れる。千切りにしたショウガとトウバンジャンを加え、香りが

出るまで炒める。
③ ②に鶏肉と長ネギを加えて炒め、肉の色が変わったら白菜を加え、しんなりするまで炒める。Aを加えてひと煮立ちさせ、アクを取る。弱火にしてふたをし、約 12 分煮る。

自民・高市政権の危険性を問う

いま政権中枢に立つ高市首相は、「国家のかたちを変える」として憲法改正に強い意欲を示しています。と

海外で武力行使無制限へ

これまで憲法9条の「専守防衛」を原則としてきた。ところが、敵基地攻撃能力の保有や集団的自衛権の拡大解釈が進み、海外での武力行使の範囲はすでに広がっています。

改憲によってその歯止めが外れれば、日本が米国の戦争により深く組み込まれ、事実上の「参戦国家」へと変質する危険があります。武力による抑止力強化は、地域の緊張を高め、軍拡競争を加速させるだけです。

しかし、権力集中は民主主義の原則に反します。憲法は本来、権力を縛るためのものです。非常時を口実に国民の権利を制限する条項が加われば、言論や集会の自由が圧迫される可能性は否定できません。

緊急事態条項の危うさ

もう一つの重大問題が緊急事態条項です。大規模災害や有事を理

由に、内閣が国会の関与なしに権限を集中できる仕組みが検討され

しんぶん赤旗日曜版 (15日付) の 4コマ漫画が話題に!

日曜版の読者の方から、「井上さんが情報を提供したのですか?」と声をかけられました。「何のことですか?」

と尋ねると、15日付日曜版に掲載された、やくみつるさんの4コマ漫画のことでした。あらためて読んでみて、思わず吹き出



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに (826)

2月の7日、8日はドキドキ感と恐怖感が混じって、なかなか落ち着かなかった。ドキドキ感ももちろん党の躍進を期待するもの。恐怖は高市突風に吹き飛ばされないうまい。7日はテレビニュースを見たかったが、いつもの通り午後8時に床に就いた。夜中にトイレ立ったとき、気になってテレビをつけると、自民党圧勝と出ていた。その後は心配であまり眠れず、いつものように4時に起きた。15分には朝刊が届く。テレビをつけると、共産党3と出ていて、残が1。その残り一つに共産党が滑り込んでほしいと思いつつじりじりと4時間待って、ネットに詳しい北支部代行のOさんに電話を入れた。Oさんも確認中とのこと、そのまま外出て居間に上がると、Oさんからの電話が入ったみたい。折り返し電話を入れたら、塩川さんが入ったということ。ほっとした。中道は三分の一の落ち込みよう。かつて社会党で社会党が衰退したように、立憲も公明党と組むことによって凋落していくのか、その予想がズバリだった。それにならなくても、護憲の党が振るわなかったことに危惧を覚えた。固定電話がどこも携帯に切り替えられ、対話ができなくなってきた。そんななか、「戦ち込んだ。そんななか、」と戦いは終わった。そんななか、「戦う出水市議選の選対ニュースに励まされた。そうだが、」と新しい火の手が上がる。地方から革新的な動きが上がる。私に元気を